ではもうきかれなくなった．

のびゆく動き

私が天文台に入ったのは昭和22年1月21日で終戦直後であり，関口台長がやめられて萩原台長に代わった当初であったから，天文台の苦難の時代であったようだ．

台長官舎にはまだ関口台長のご家族と女婿の朝永振一郎教授が同居しておられて，よく奥さんが隣組の回覧板をもってこられて親しく言葉を交したこともあった．その後間もなく朝永教授は一台のトラックに荷物を満載して引き移って行かれたが，その荷物の上にあの痩躯を折り曲げて乗っておられ，にやっと会釈して出て行かれた．その光景はつい昨日のように思えてくる．私はそれから萩原台長，宮地台長，広瀬台長，現在の古畑台長の4人の台長に仕えたことになるが，私の在職23年余月に亘る間には職員数も倍以上の200名になり，施設の面においても，乗鞍・岡山・堂平・野辺山をはじめ，分光・測光各実験室・工場・電気室・図書・太陽電波・宇宙電波・本館・銀河系その他の建設，増設など正にのびゆく天文台である．門外漢の私ごとき者にすら，その規模と内容の充実したことが察せられる．

ロマンチスト敗北の記

あるとき会計課長三輪克明，庶務課長工藤房之助の両氏に呼ばれておききしたことによると，萩原台長が独身者の栄養のことを非常に心配しておられるので何とか食堂の開設を考えて欲しいという懇請であった．私も台長がそれほどまでに職員のことを考えておられるのかと感動し私の身をお役にたてようと決意した．それから食堂設立に取り組み，間もなく曲りなりにも昭和25年の秋より天文台に食堂らしきものが開設され，常食者約15名から出発した．現在地理院におられる檀原さんが中心になって食費の割り出しをされたのであるが，確か朝食12円，昼食25円，夕食30円だったと記憶する．このささやかな食堂利用者のなかから，いまをときめく東大天文学教室のU教授，東北大学のT教授，東京天文台のK部長，A部長，M部長をはじめとする教授，助教授，および天文台を支える人々が輩出された．

私は食堂経営を依頼されてから，天文台の環境と将来を考えて，構想を練った．市井から隔絶したこの特殊な環境を利用して，一つこんな理想郷を建設してやろうと自分なりに大きな目標をもったのである．それは食堂と牧場経営とを両立させて，独立採算のとれる経営にもってゆくこと．天文台当局と直接関係のない内容にすること．例えば，外郭団体のような形式にもってゆき食事と牛乳を安く供給するという考えであり，このことは年を重ねるごとに体験と教訓とが加わり，「これはゆけるぞ」という自信になってきた．人は希望をもつとき心が明るく張りのある日々が訪れるものである．この私の目標とした夢を構図として分り易く示すならば，森林地帯に囲まれた台地……ポプラ並木と牧草のなかに点在する施設，そこに放牧された乳牛の長閑ななき声……自然と科学が渾然と調和された風景，北欧的牧歌的な理想郷を夢に画いて胸ふくらませていたものだったが，「国立」という大きな壁を遂に打ち破ることができなかった．加えて食堂の方は職員の増加しないことと，物の出回りの良くなるにつれて，経営に矛盾が起こり遂に33年7月ことこころざしと違って，私は守衛所に転出することになった．それでも8年間食堂経営と安い牛乳(一合7円)を官舎と職員に供給出来たことは，せめてもの慰めとなった．

私の大きな野望・天文台エゴイズムの構想は破れ去ってしまったが，また私の胸深くうづもれてしまったけれども，ときとして胸ついて出てくる!! それは若き日の感激である．最後に天文台の自然の保護のために，願わくば構内の雑草の処理に当ってなるべく薬剤散布を極地にとどめて頂き，コオロギ，馬追，クツワムシの棲む武蔵野の自然の原野の姿をできるだけとどめておいて頂きたいとおもう．いまはただそれだけである．

学会だより

日本天文学会改革委員会（仮称）の発足

学会改革の具体的問題（たとえば支部の体制）を煮つめるために，秋の年会で設置のきまった改革委員会（仮称）の人選を進めてきましたが，各支部の推薦をもとに，旧ワーキング・グループを含めて次の諸氏で発足することになりました．なお，これにともない運営検討委員会は解散になりました．

記

理事：　末元善三郎，青木信仰，守山史生，近藤雅之
東北：　若生康二郎
東京：　小平桂一，菊池　仙，木村精二，小暮智一
名古屋：鰕目信三
京都：　川口市郎，平田龍幸

（紙面の都合で，44ページにも学会だよりがあります）

SAM 夏の研究会集録 (1970)

第 10 回の SAM 集録ができました．205 頁，頒価送料とも 505 円，希望者は東京天文台（東京都三鷹市大沢）銀河系研究室あて，現金書留でお申し込み下さい．内容の概略はつぎの通り．

〔A〕 大型シュミット望遠鏡とそれによる観測，および観測結果の測定器械について：

光学系(吉田，宮本，大木)，堂平の 50 cm 彗星写真儀(香西)，対物プリズム(山下，石田，冨野)，Astrometry (畑中)，赤外観測(奥田)，眼の性質(冨田)，諸測定器械(冨田，石田，山下，今川，下田，田鍋)．

〔B〕 銀河系および諸銀河のメンバーとしての星団について：

総論(高柳)，測光特性の統計(今川)，Encounter Effect (北村)，力学的年令(馬場)，多体問題(堀，馬場)，質量スペクトル(横尾)，星団内の恒星の自転(高橋)，球状星団(下田，菊池)，星の集団の流体力学的方程式(新見)，星間雲の形成 (松田)，Clouds Collision と散開星団 (田中)．

賛 助 会 員 名 簿

旭光学工業株式会社	鈴木幸三郎	誠文堂新光社	小川誠一郎
朝日新聞社科学部	梅田敏郎	測機舎株式会社	西川末三
アジア航測株式会社	駒村雄三郎	ソニー株式会社	井深大
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	谷村株式会社新興製作所	谷村貞治
岩井計算センター	大隅義郎	地人書館	上条勇
岩波書店	岩波雄二郎	天文博物館	
宇宙開発事業団	島秀雄	五島プラネタリウム	五島昇
カールツアイス株式会社	波木泰雄	東京精密測器株式会社	池辺常刀
関西電力株式会社	芦原義重	東京電力株式会社	木川田一隆
関東電気工業株式会社	関井忠夫	東北電力株式会社	若林彊
九州電力株式会社	赤羽善治	ナルミ商会	村上俊男
株式会社クラレ	仙石襄	日米商会	高野高之
恒星社厚生閣	志賀正路	日本光学工業株式会社	杉豊
甲南カメラ研究所	西村中子	日本出版貿易株式会社	望月正捷
五藤光学研究所	五藤斉三	丸善株式会社	司忠
金光教本部教庁	金光鑑太郎	三鷹光器株式会社	中村義一
三栄測器株式会社	丘山欽也	三菱重工業株式会社	久保富夫
三省堂	亀井要	三菱電機株式会社	
島田理化工業株式会社	実武夫	電子営業第二部	伊東祐義
新電子工業株式会社	山本和一	ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄
住友化学工業株式会社	大谷一雄	八洲測量株式会社	西村正紀

1970 年 12 月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	11,	70	6	—,	—	11	16,	183	16	11,	87	21	8,	128	26	—,	—
2	—,	—	7	9,	120	12	—,	—	17	—,	—	22	9,	121	27	8,	38
3	9,	51	8	9,	93	13	6,	78	18	11,	67	23	—,	—	28	8,	32
4	8,	63	9	7,	122	14	9,	91	19	—,	—	24	9,	124	29	7,	35
5	7,	79	10	11,	154	15	10,	67	20	—,	—	25	—,	—	30	—,	—
															31	—,	—

(相対数月平均値: 136.3)

昭和 46 年 1 月 20 日 印刷発行
定価 125 円

編集兼発行人 東京都三鷹市東京天文台内 森本雅樹
印刷所 東京都文京区水道 2-7-5 啓文堂松本印刷
発行所 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359 振替口座東京 13595